

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【東宮下小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	問いを正しく読み取ることに課題が見られるため、授業の中で文章の意図を読み取る活動に繰り返し取り組んでいく。基礎的事項のさらなる向上を図るため、朝の時間だけでなく、各教科の時間の効率化を図り、授業内での習熟や復習の時間を確保するための工夫を講じていきたい。
思考・判断・表現	依然として、無回答率が多い状況にあるため、今後困難な課題に対し、粘り強く取り組む姿勢を身に付けさせたい。自分の考えを書いたり、話したりする活動を繰り返し、お互いの考えに対してコメント等をする交流の時間を確保し、自分の考えとの違いに触れ自分の考えを深めていく活動を充実させていきたい。また、教科横断的に授業展開を考え、ICT機器を効果的に活用しながら学習活動を充実させていくことで、児童の理解の深化を図っていきたい。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題> さいたま市学力状況調査では、主語・述語の関係を捉える問題に課題がみられた。</p> <p><指導上の課題> 「言葉の特徴や使い方に関する事項」への取組を全学年で重点的に取り組む。</p>	⇒ 朝の学習の時間に行うチャレンジ国語・算数等でのプリント学習において、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む【年間70回以上の実施】。授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする【毎時間設定】。
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 根拠となる部分を引用して自分の考えを具体的に書くことに課題がみられる。</p> <p><指導上の課題> 各教科の授業で、根拠資料や友だちの考えを基に、自己の考えをまとめる活動を重視していく。</p>	⇒ 児童が作品、ノート、ワークシート等に取り組み際、評価の観点を明確に示し、児童が考えたプロセスにコメントや花丸等を付記して、評価している。授業の中で多様な考えに触れたり、課題に対し、じっくりと考える機会を意図的・計画的に設定する。【R7年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の肯定的な回答が90%以上】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能		国語において、朝の基礎学力の定着を図った基本的な内容の習熟や復習等の取り組みの成果として知識・技能の正答率の向上につながったと考える。 算数において、「ドリルパーク」等を活用して繰り返し計算に取り組む機会を確保することができた。
思考・判断・表現		R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の肯定的な回答が90%以上は達成できた。学習形態を選択できる機会を位置付けることで、課題に応じて自ら選択する経験を重ねることができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語においては、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるか問う設問に対し、類型解答をみると、正しく情報を整理して思考することに困難さが見られた。算数の「図形」領域において課題がみられた。条件にあっている図形を求める問題の誤答が多いことから、図形の性質を理解できていないと推測できる。	
思考・判断・表現	国語では、調べたことを基に詳しく書く設問において課題が見られた。解答類型として、指定された条件の中にある必要箇所に着眼しなければならぬ問題に対し、読み解くことに困難さが見られ、それらの語句を使用しながら解答することができていなかった。また、目的に応じて文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけることにおいても課題が見られた。 算数では、分数において課題が見られた。もとにする数と同じ数に挿入、該当の分数の何個分かを問う問題で通分をすることはできているが、それぞれの数のいくつ分かを解答することができていなかった。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語においては各学年で概ね市の平均を上回ることができている。しかし算数の「小数の数の構成」「除法の場面をどうえ、商とあまりについて適切に判断する」「四角形の定義を理解し選択する」「公約数を正確に求める」「五角形の角の大きさの和を求める考えを式に表す」等公式を活用する問題に課題が残った。	
思考・判断・表現	算数における「身の回りの単位の仕組みを考える」「かさの単位の関係」「0を含む測定値の平均を求める」「複合グラフから特徴を読み取る」等の正答率が低く、昨年度の3年、5年の結果を下回っている。生活に即した課題やその他の教科との関連のある項目での課題が残った。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	朝の学習の時間に行うチャレンジ国語・算数等でのプリント学習、授業内における反復学習は計画通り実施できている。しかし、授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定する時間についてはすべての時間での実施はできていない。	変更なし
思考・判断・表現	B	児童が作品、ノート、ワークシート等に取り組み際、評価の観点を明確に示し、児童が考えたプロセスにコメントや花丸等を付記して、評価している。授業の中で多様な考えに触れたり、課題に対し、じっくりと考える機会を意図的・計画的に設定している。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)